

平成30年度 第1回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 30 年 8 月 22 日(水) 14:00 ~ 15:00
2. 開催場所 : 株式会社東北新社 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-10)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 5 名
出席委員の氏名 : 芥川麻実子委員長、中町綾子委員、岩佐陽一委員、武内智雄委員、
中嶋貞治委員

欠席委員の氏名 : 添田弘幸委員、岩本昭治委員

放送事業者側出席者氏名 :

<株式会社東北新社メディアサービス>
菅正剛取締役

<株式会社ファミリー劇場>(ファミリー劇場 HD)
服部洋之代表取締役社長、久竹庸代、永松幸嗣、郷野洋行

4. 審議対象チャンネル : ファミリー劇場 HD
5. 議題 : 番組審議
<審議対象番組>
「STU48 イ申テレビ シーズン 1VOL.9 瀧野レストラン」

6. 審議内容

・番組全体として、さわやかな印象を受けた。衣装や手作りの看板、天気など明るい水色が多用されたことも影響している。また、過度にテロップであるようなことがないため、ガチャガチャした感じを受けず、好感度が高いと感じた。

・ムチャぶりが番組の売りなのだから、タレントとスタッフの関係性を、もっと盛り込んだほうが良かった。スタッフがタレントに厳しい態度で接しているやりとりがないと、タレントがカレーを作る過程で、誰かの力を借りているのではないかと、疑ってしまう。タレントが困っている様子が、もっと多くてよい。

・カレーを作るというシンプルなミッションに好感が持てた。一方、なぜカレーなのか？なぜ練乳を入れるのか？など理由を深く掘りさげて、もう少し丁寧に説明した方がよかった。

・現場にかけつけたファンへのインタビュー映像が、タレントを見守っている気持ちが十分に伝わってくるもので、番組の魅力が増した。

・48人分のカレーをキッチンカーで作ることについて、材料に使用した大きい肉のかたまりは、時間をかけて煮込まないと柔らかくならないのでは、と疑問に思った。米についても同様に、48人分しっかり研いだのか、気になった。

・SNSを利用した場所探しなど、ファンも一緒に楽しめる内容。情報へのアクセス方法が変ってきていると感じる。このような新しい試みを、これからも続けてほしい。

・番組冒頭のタレントの登場シーンについて、これから売り出そうとしている割には雑な感じを受けた。もっと、かわいらしく出来ないものか。

・時代が変わりそう感じるのかもしれないが、現場にかけつけたファンである一般人は、寒い中立ちっぱなしで待っているのだろうと、心配した。事故が無いように、ということが重要だ。

<事業者回答>

今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上

平成30年度 第2回番組審議会議事録

1. 開催年月日 : 平成 30 年 9 月 3 日(月) 12:00 ~ 13:30
2. 開催場所 : 株式会社スーパーネットワーク 会議室 (東京都港区赤坂 4-8-14)
3. 委員の出席 : 委員総数 7 名 / 出席委員数 5 名
出席委員の氏名 : 天城鞆彦委員、関沢英彦委員、瀬戸純一委員、中浩正委員、米村恵子委員

欠席委員の氏名 : 野田慶人委員、酒井順子委員

放送事業者側出席者氏名 :
 <株式会社東北新社メディアサービス>
 菅正剛取締役

 <株式会社スーパーネットワーク>(Super! drama TV HD)
 宮内昭代表取締役社長、西尾敏常務取締役、額田大介 編成チーム チームマネージャー
 泉直樹、坪井幸一郎
4. 審議対象チャンネル : Super! drama TV HD
5. 議題 : 番組審議
 <審議対象番組>
 ・「S.W.A.T. (吹替版)」第 1 話 ※2018 年 6 月放送開始
 ・「アメリカン・クライム・ストーリー／O・J・シンプソン事件(吹替版)」第 1 話 ※2018 年 9 月放送開始
6. 審議内容
 <「S.W.A.T. (吹替版)」第 1 話について>
 ・恋愛、人種問題、派閥争いなど様々なテーマが詰め込まれておりアクション以外にも楽しめた。
 ただし全体を通して画面が暗い。

 ・アクションシーンは迫力満点。徐々に物語に引き込まれていき、第 2 話、第 3 話と続きが観たくなる。登場人物の相関設定に現実味がない。

 ・アクションシーンは映画の並の迫力があり見応えがあるが、その反面ストーリーに深みがない。
 事件と署内の人事の確執のみで展開している。主人公がハートフルで魅力的。

 ・「男性と女性」「人種」「保守とリベラル」など、たくさんの対立で構成されており、その対立が複雑に絡み合うことで深みのあるストーリーになっている。

<「アメリカン・クライム・ストーリー／O・J・シンプソン事件（吹替版）」第 1 話について>

・実話を元に行っているためストーリーがきちんと構成されており最終話まで視聴したい。

・米国では非常に知られた事件ではあるが日本ではそれ程関心は高くなかったのではないかと。放送前の宣伝やプロモーションが課題になるのでは。

・アメリカンフットボールという日本ではマイナースポーツで興味を引けるのか。

・ジョン・トラボルタや主演男優もオスカーを獲得している演技力が高く知名度のある映画スターが出演していることでドラマの格調が高くなり画面が絞まる。

・主演がアメリカンフットボールの元スター選手の設定だが体格がスポーツマンではないのが残念。

・法廷ドラマとのことだが第 1 話は裁判のシーンがなく今後の展開に期待したい。

・音楽の使い方が非常に効果的。

・心理描写が浅く、重厚さに欠ける。声優が第一話では馴染んでいない。

・カメラワークやライティングが独特でドラマの雰囲気にも相乗効果をもたらしている。

<事業者回答>

今後の番組編成の参考にさせていただく。

以上

平成30年度 第3回番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成 30 年 9 月 26 日(水) 15:00 ～ 16:30
2. 開催場所：株式会社東北新社 会議室（東京都港区赤坂 4-8-10）
3. 委員の出席：委員総数 7 名 / 出席委員数 7 名
出席委員の氏名：小池保委員長、渡辺祥子委員、横山宗嘉委員、渡辺純一委員、藤森益弘委員、
谷口恭子委員、田久保敏委員

放送事業者側出席者氏名：

<株式会社東北新社メディアサービス>

菅正剛取締役

<株式会社ザ・シネマ>（ザ・シネマ HD）

三上義之代表取締役社長、松崎航リーダー、福寿亮、小西理恵子

4. 審議対象チャンネル：ザ・シネマ HD

5. 議題：番組審議

<審議対象番組>

「シネマ・ミュージック with サラ・オレイン」

6. 審議内容

- ・映画音楽を歌うコンサートなのに、歌い出しに曲名が出てこないのは不親切。エンドクレジットに曲名が流れるだけでは不十分だと感じた。
- ・映画音楽にも関わらず、映画の映像が映し出されないのが残念。映画の世界に引き込まれるために、本編映像はラストだったのでは。
- ・オープニングの曲が『ロミオとジュリエット』だったが、今時の選曲とは思えない。また、若い人も大きなターゲットであるはずなのに選曲が古い。
- ・50代以上がターゲットにも関わらず、『シネマ・ミュージック with サラ・オレイン』の様に若者向けコンテンツが良い時間に編成されている傾向を感じる。
- ・コンサートで披露した曲の映画を隣接編成するなど、編成でも工夫を見たかった。
- ・LIVE コンテンツかつクラシック系のコンテンツをテレビで放送する事の難しさはわかるが、新しい試みとしてとても良かったと思う。サラ・オレインはこれからの人気期待できるアーティストであるし面白い企画だった。今回だけに終わらず、他のアーティストでの企画も期待したい。
- ・歌詞の世界観を味わえる様に、字幕があるべきだったと思う。

<事業者回答>

- ・好き嫌いが別れるのは当然であり率直なコメントに感謝。しかし、コンサートチケットは即完売の人気アーティストであり、毎年公演回数、広告展開も増えているアーティスト。若い女性や親子連れなどもコンサート会場には多く、当番組の新しい顧客を持っていると感じている。反省点として、「コンサートに行く」という事は、お客さん同士の共感や、その場の空気による高揚感も含まれているが、それをテレビで魅力的に観せる、という意識が足りず、演出、構成などに工夫が足りなかった。頂いたご意見を踏まえ、次回への反省点とさせて頂きたい。

以上